

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）		担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技能と表現を身につける。最終回に実施する実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能を練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、伴奏課題曲の実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、伴奏課題曲の実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。伴奏課題曲の実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）		担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技能と表現を身につける。最終回に実施する実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能を練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、伴奏課題曲の実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、伴奏課題曲の実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。伴奏課題曲の実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）		担当教員	市野 啓子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技能と表現を身につける。最終回に実施する実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能を練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、伴奏課題曲の実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、伴奏課題曲の実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。伴奏課題曲の実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）		担当教員	鷺見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技能と表現を身につける。最終回に実施する実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能を練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、伴奏課題曲の実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、伴奏課題曲の実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。伴奏課題曲の実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ		担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基礎的な演奏技能と表現をさらに高める。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	実技発表曲のクラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ		担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基礎的な演奏技能と表現をさらに高める。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	実技発表曲のクラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ		担当教員	鷺見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基礎的な演奏技能と表現をさらに高める。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	実技発表曲のクラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ		担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基礎的な演奏技能と表現をさらに高める。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲のグレードを設定、実技チェックの説明
第2回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（１）読譜
第3回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（３）演奏表現
第5回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅠ（４）仕上げ
第6回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（１）読譜
第7回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（３）演奏表現
第9回	課題曲の演奏と基礎テクニックⅡ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の演奏（１）読譜
第11回	実技発表曲の演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	実技発表曲のクラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ		担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品について、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール、アルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲・読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール、アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ		担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品について、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール、アルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲・読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール、アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ		担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品について、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール、アルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲・読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール、アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ		担当教員	市野 啓子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品について、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してスケール、アルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲・読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。スケール、アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ		担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏ⅠからⅢを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品に必要な演奏技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してアルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、これまでの鍵盤楽器演奏で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲と読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ		担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏ⅠからⅢを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品に必要な演奏技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してアルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、これまでの鍵盤楽器演奏で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲と読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ		担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏ⅠからⅢを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品に必要な演奏技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してアルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、これまでの鍵盤楽器演奏で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲と読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ		担当教員	鷺見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏ⅠからⅢを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品に必要な演奏技能と表現を習得することができる。最終回に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、実技チェックを通してアルペジオ等のピアノの基礎的な技術を習得できる。				
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、グレード表の中から課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。各自の課題曲の解釈と演奏ⅠとⅡではそれぞれ異なる作曲家に取り組む。また作品に関する文献を読み、これまでの鍵盤楽器演奏で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲を決定
第2回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（１）読譜
第3回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（２）楽曲分析
第4回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（３）演奏表現
第5回	課題曲の解釈と演奏Ⅰ（４）仕上げ
第6回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（１）読譜
第7回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（２）楽曲分析
第8回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（３）演奏表現
第9回	課題曲の解釈と演奏Ⅱ（４）仕上げ
第10回	実技発表曲の解釈と演奏（１）選曲と読譜
第11回	実技発表曲の解釈と演奏（２）楽曲分析
第12回	実技発表曲の解釈と演奏（３）演奏表現
第13回	実技発表曲の解釈と演奏（４）暗譜・仕上げ
第14回	クラス内発表とグループ討論、実技チェックの確認
第15回	実技発表とまとめ

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。アルペジオ等の基礎テクニックの実技チェックを受ける。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	実技発表会を実施し、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	20%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
全訳ハノンピアノ教本	C.ハノン	全音楽譜出版社	978-4111040100	なし
参考資料	授業時に適宜紹介する。			